

令和4年第10回

羅臼町教育委員会議事録

令和4年第10回羅臼町教育委員会

1 日 時 令和4年10月26日(水) 10時00分～11時45分

2 場 所 羅臼町役場3階第5・6会議室

3 出席者

教育長	石 崎 佳 典
委 員	萬 屋 志都子
委 員	葛 西 良 浩
委 員	芦 崎 拓 也
委 員	佐々木 美 穂
教育指導主幹	横 澤 英 三
学務課長	平 田 充
社会教育課長	野 田 泰 寿
総務管理係	黒 田 一 気

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議 題

報告 第12号 諸会議・諸行事について

7 その他

(1) 主幹通信について

【開 会】

○石崎教育長

それでは、これより令和4年第10回教育委員会を開催いたします。

本日、全委員が出席されておりますので会議は成立といたします。

本日の議事録署名委員につきましては、葛西委員と芦崎委員にお願いいたします。

本日の議題は、報告事項として、報告第12号「諸会議・諸行事について」の1件となっております。

議事に入る前に、私より行政報告をさせていただきます。

一点目は、新型コロナウイルスの感染状況についてです。

現在、道内を含め全国的に感染者が減少と増加を繰り返している傾向にあり、町内においても一時は感染者がいない状況となっておりましたが、ここ数日で増加傾向となってきました。

町内の学校、幼稚園の状況としましては、羅臼幼稚園で陽性者が確認され、濃厚接触者多数となったため、昨日10月25日から28日まで休園の措置をとっております。

また、春松小学校、羅臼小学校、知床未来中学校の各校でも陽性者が確認されており、風邪症状により学校を休んでいる児童生徒が多数いる状況となっております。

感染経路がはっきりしない状況ではありますが、幼稚園や各学校での感染対策については再度、徹底するように求めて参ります。

二点目は、「高校生の一斉議会」についてです。

11月1日に「高校生の一斉議会」が開催される予定となっており、羅臼高校3年生の6つの班からの14件の質問の内、3件が教育委員会に対する質問となっております。

前回の一斉議会では教育委員会に対しての質問はありませんでしたので、今回の一斉議会では高校生の質問や提案へ答弁できる機会がありますので、有意義な時間になりたいと考えております。

教育委員の皆さまもお忙しいとは存じますが、ご出席をお願いいたします。

以上、行政報告といたします。

それでは、議事に入ります。

【議 事】

●報告 第12号 諸会議・諸行事について

○石崎教育長

それでは、報告第12号「諸会議・諸行事について」担当課長から説明をお願いいたします。

○学務課長

報告第12号「諸会議・諸行事について」ご説明いたします。

諸会議・諸行事につきまして、10月から11月の主な予定を掲載しております。

学務課の所管行事の今後の予定としまして、11月1日に今年度2回目の「高校生の一日議会」が開催され、教育委員の皆さまにもご案内させていただきますので、ご出席頂きますようお願い申し上げます。

その他、学務課の所管行事については議案のとおりとなっております。

私からは以上です。

○社会教育課長

続きまして、社会教育課の所管行事の今後の予定についてご説明いたします。

11月の主な予定としましては、11月5日に「緒むすび～親子DE体験スポーツフェス」が開催予定となっております。

11月19日から20日には東京都世田谷区千歳船橋において「知床物産展」が3年ぶりに開催予定で、羅臼高校の創作料理プロジェクトによる「らうす大漁焼き」の販売を計画しております。

11月21日から22日には「緒むすび～メディアコントロール講演会」が小学校、中学校、子ども発達支援センターありんこを会場に開催予定となっております。

11月23日から25日には「羅臼町総合文化祭」を羅臼町民体育館らうすぽを会場として、昨年同様、各団体や個人による作品展示のみで計画しております。

引き続き、図書館事業及び郷土資料館の事業につきましては議案のとおりとなっております。

以上です。

○石崎教育長

報告第12号について、ご意見、ご質問はございますか。

○萬屋委員

図書館所管事業として10月11日に「図書館基本構想に係る意見交換会」が開催されておりますが、読み聞かせサークルの皆さんからのご意見などがありましたら内容についてご説明願います。

○社会教育課長

意見交換会では参加者の皆さまに対し、設計業者が作成したイメージパース及び改修ゾーニング図を提示した上で構想について説明させて頂きました。

今回新たに図書館を設ける場所として旧釧路信用組合の建物を利用することとしており、道の駅近隣であることも踏まえ交流拠点機能と図書機能を兼ねた施設をイメージしての設計となっています。

参加者からのご意見としては「図書スペースの静穏を保つためにも交流拠点機能と図書機能のスペースは明確に区分した方がよい。」というご意見の他、「現在の駐車場のスペースでは足りないのでは。」「開架数をしっかりと確保してほしい。」とのご意見を頂いております。

○萬屋委員

今回取得した物件は2階建てであるため、交流拠点機能を2階、図書スペースを1階などで区分をすることができると思いますが、建物2階の活用方法とアプローチの方法についてはどのように考えていますか。

○社会教育課長

取得した物件の2階はこれまで会議スペースが配置されており、2階に交流拠点機能を持たせたリニューアルとすることは可能であると考えています。

2階へのアプローチの方法として既存の階段を活用するか、新たな場所に設置するかについては他の機能と館内レイアウトと並行し、改めて業者に設計を依頼することとしております。

○芦崎委員

駐車場についてですが、図書館内で読書するため比較的長い時間、駐車場を使用する方もいることを考えると駐車台数が少ないように感じますが、どのような対応を考えていますか。

道の駅の駐車場を利用することを考えているのであれば、道の駅利用者やテナントとのトラブルが懸念されると思います。

○社会教育課長

駐車台数の確保については、近隣の町有地や私有地、道の駐車場の利用の可否について検討することを提案させて頂いており、道の駅を所管している担当課と協議しておりますが、現時点で結論は出ておりませんので引き続き検討を進めて参ります。

○石崎教育長

基本構想で求められる機能について示しておりますが、既存施設を活用した図書館づくりを進める中で、全ての機能を網羅することは難しいと考えています。

頂いた意見の中に「施設の目的をはっきりとさせるべき。」との声もありましたので、町民の意見を聞いた上で必要な機能を持たせた図書館づくりをして参りたい。

他に報告第12号について、ご意見、ご質問はございますか。

○佐々木委員

参加できなかったため、10月15日の郷土資料館の新設展示室開設記念事業の開催時の状況について教えて頂きたいです。

○石崎教育長

当日は午前の部と午後の部に分けて展示物の解説などが行われ、私が参加した午前の部は30名以上、午後の部は10名以上の参加があったと報告を受けております。

郷土芸能である知床いぶき樽の関連資料の他、北方領土関連の希少な展示物が新たに常設となり、千島連盟の方をはじめ、多くの地域の方々が来館しておりました。

また、当日は北海道博物館の右代学芸員^{うしろ}にお越しいただき、主に北方領土に関する展示物の詳しい解説をして頂いたことに加えて、貴重な展示物の常設展示が可能となったことから、展示物をまとめた書物となる「図録」の整備についてご提案を頂きました。

「図録」を整備した上で、町のホームページなどを活用して情報配信するなど、羅臼町の郷土資料について広く周知するための取組みに繋がるものであります。

いずれの展示物も常設展示となっておりますので、お時間のある際に郷土資料館へ訪れて頂ければと思います。

他に報告第12号について、ご意見、ご質問はございますか。

(意見・質問等は特になし)

○石崎教育長

それでは、報告第12号「諸会議・諸行事について」は承認されました。

以上で議事を終了いたします。

【その他】

●指導主幹通信について

○石崎教育長

その他として、「教育指導主幹通信について」報告をお願いいたします。

○横澤主幹

(主幹通信について説明)

一点目は自閉症と環境要因・社会的要因の関係についての論文について紹介しておりますのでお目通し願います。

二点目として、別紙により7月26日に実施された「ESD&幼小中高一貫教育研修会」の参加者事後アンケートの結果がまとまりましたのでご紹介しております。

午前中に行われた「ESDに関する研修について」が5点満点中、受講者平均3.43点となり期待値3.5点を下回りましたが、引き続き研修を継続し、来年度については「実際の授業づくり」に重点をおいた研修を計画したいと考えております。

午後からは「ゲートキーパーに関する研修」が行われ5点満点中、受講者平均3.33点と期待値3.5点を下回りましたが、いずれの研修も受講者から肯定的な意見が多く寄せられております。

最後に、今年度2回目の「アフタースクール」を開催予定についてお知らせしており、11月12日から13日に予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の陽性者が増えてきている現状もありますので、開催については状況を鑑みて決定いたします。

以上です。

○石崎教育長

ただいまの報告について、ご意見、ご質問はございますか。

(意見、質問等は特になし)

○石崎教育長

その他、事務局より連絡及び報告事項などはありますか。

○学務課長

改めまして、11月1日に「高校生の一日議会」が開催されますので教育委員の皆さまのご出席をお願い申し上げます。

欠席される場合はご連絡頂ければと思います。

次に、今年度の新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休校及び臨時休園についてご報告いたします。

令和3年度には感染拡大に伴う臨時休校及び臨時休園はありませんでしたが、今年度は5月に知床未来中学校で学級閉鎖による臨時休校、8月に春松幼稚園で2日間の臨時休園、10月に羅臼幼稚園で4日間の臨時休園がありましたのでご報告いたします。

○葛西委員

臨時休校に伴って学習時数や冬休みへの影響はありませんか。

○学務課長

現時点では学習時数への影響はないとの報告を各学校より受けており、今後、陽性者が増えて臨時休校となることも考えられますが時数の確保は出来る見込みです。

○佐々木委員

両幼稚園が臨時休園の措置をとっているようですが、現時点でかなりの陽性者が確認されている状況ですか。

○学務課長

現在、臨時休園中の羅臼幼稚園の状況をご報告致します。

10月24日時点で年長、年中で各1名ずつ陽性者を確認しており、10名以上が風邪症状で欠席しており、10月25日に教員2名が陽性判定となったことから感染拡大防止のため、28日までの臨時休園の措置をとっております。

羅臼幼稚園以外でも風邪症状による欠席者が多数おり、保健福祉課からの報告によれば町が配布している抗原検査キットを受取りにくる家庭が相当数いるため、検査キットの結果により、「みなし陽性」を含む陽性が増える可能性があります。

各幼稚園、学校からは風邪症状がある場合は自宅待機の判断をする前に医療機関を受診するよう保護者に対してお願いしているところです。

次に羅臼高校の全国公募についてです。

現在、羅臼高校は「地理的状況等から再編が困難であり、地元からの進学率が高い高校」として平成31年度より「地域連携特例校」として存続が図られており、地域の事情や取組みを勘案した特例的な扱いとなっております。

全国公募に向けて教育委員会事務局では関係機関へのヒアリングなどにより情報収集を進めているところです。

今後、全国公募を実施すべきかの判断、その時期、必要となる予算等について教育委

員の皆さまに検討して頂く必要があることから情報提供をさせていただきます。

今年度、教育長以下、事務局と町長部局の企画振興課長で道内の全国公募を行っている自治体の高校視察を実施しており、礼文島、幌加内町、音威子府村のそれぞれの高校の取組みや実態について話しを伺ってきましたので、別紙資料にまとめておりますのでご覧ください。

まずは全国公募に伴う課題や検討事項についてご説明いたします。

一点目は宿泊施設の確保となっており、寮もしくは下宿の整備の検討が必要になり、寮を整備する場合には維持管理を含めて職員の配置が伴い、規則の作成も併せて必要になります。

二点目は道外の生徒の受け入れるための町民理解であり、道が定める全国公募のルールにおいても「地域住民の理解」が求められていることから必須の対応となります。

三点目は支援策についてです。

視察先それぞれの自治体の高校ごとに違いはありますが、通学支援金や季節ごとの帰省支援金などの経済的な支援の他、不登校気味の生徒に対するケアや学習面でのケアなど、生活支援を行っている自治体もありました。

四点目は羅臼高校の魅力づくりについてです。

全国公募を行う際に、これまでどおり普通科のみの募集では魅力ある高校としてのPRが難しいことから、例えば、知床学や水産業の科目などをメインにした特色ある総合学科を設けるといった方法の検討も考えられます。

五点目は全国公募による入学者の傾向についてですが、視察先すべての高校で「中学時代は不登校であった。」「いじめ被害にあっていた。」など困り感のある生徒が多いということが共通しておりました。

一方で、入学後の環境の変化によりいじめが解消する生徒も多数おり、礼文島の担当者からは「全国公募による受入れ体制をしっかりと整備できれば、募集人数の確保は十分可能ではないか。」との見解も頂いております。

六点目は地元生徒と町外生徒の比率の問題ですが、こちらについては視察先の自治体の方針や高校の運営主体により考え方が異なることから、羅臼町としての方向性を検討する必要があります。

礼文島は「礼文島の高校としての雰囲気を残して運営したい。」という考えに基づき、町外生徒が地元生徒を上回らないようにしているとのことでした。

幌加内町や音威子府村は町立や村立の高校として自治体が運営していますが、「地元には高校をどうしても残したい。」という地域の声もあり、どちらの高校も地元生徒がいない状況で、毎年、全国公募による希望者のみが入学しているとのことでした。

七点目は全国公募に関するPRについてです。

全国公募をするにあたり、羅臼高校の特色づくりをPRする方法としてチラシやポスターの作成の他、各種SNSを活用した情報配信が必要になり、方法に応じた予算の

確保が必要となります。

以上、全国公募に向けた課題と検討事項です。

引続き、全国公募の予定人数について試算した資料として別紙の「全国公募予定人数」をご覧ください。

地域連携特例校の認定は「地元からの進学率が高いこと」が条件となっていることから、特例校として存続させ続けるため、来年度以降、知床未来中学校の卒業生の50%が羅臼高校に進学することを前提とした場合の全国公募の募集人数について、2022年度から2035年度まで試算した結果となっております。

あくまでも知床未来中学校から羅臼高校への進学者を50%とした場合での試算であることから、地元から50%を超える人数が羅臼高校への進学を希望した場合には、年度によっては羅臼町から町外の高校へ進学せざるを得ない可能性も出てきます。

また、同じ資料内に町外からの進学者向けの下宿の戸数について掲載しており、地元からの卒業人数が減るにつれ、全国公募の募集人数を増やすことが考えられますが、同時に下宿の戸数もより多く確保する必要があります。

来年度の全国公募については、本年5月までに手続きをする必要があったことから、令和5年度の入学者から全国公募を開始することはできませんが、羅臼高校からは「全国公募を行いたい。」という意向を伺っております。

その他の資料として、道内の地域連携特例校の概要をまとめた資料及び道立高校の寄宿舎制度、通学費補助制度の資料を添付しておりますので後ほどご覧ください。

以上、全国公募に関する情報提供とさせていただきます。

○石崎教育長

ただいまの報告について、ご意見、ご質問はございますか。

○佐々木委員

全国公募の最短のスケジュールはどのようになりますか。

○学務課長

最短としては、令和5年5月までに羅臼高校を全国公募の対象とする手続きを行い、令和6年4月の入学者の募集が最短となります。

○芦崎委員

これまで、入学者数の減少や地域からの高校存続を望む声を理由に、高校存続の話が進んでいると認識していますが、事務局より情報提供を頂いたとおり、高校存続するための全国公募には様々な課題があることから羅臼高校存続の目的について改めて確認させて頂きたい。

存続にむけて全国公募を行うため、羅臼高校の魅力として総合学科や専科の設置など、現状からの変化をもたらす内容であれば町民の理解を得られるかもしれないが、下宿や寮などの施設確保、支援制度の充実など課題も多くあるため、目的を明確にしてからの検討が教育委員として必要だと感じています。

○葛西委員

高校存続の大きな目的としては地域から「高校を残してほしい。」という声が出ていたからと記憶しています。

事務局からの説明にもありましたが、道が定める全国公募を実施するルールとして「地域住民の理解」が必要になるため、住民説明会等を行い、その中で「絶対に高校を残してほしい。」という声が上がるのであれば、下宿や寮などの施設確保も課題として挙げられていましたが、声だけではなく実際に地域住民の協力が必須であることを地域に認識してもらうことが必要ではないでしょうか。

何となく高校を残してほしいという意見の吸い上げだけではなく、地域に対してより具体的に協力を仰ぐ必要がある事項を整えておくべきではないでしょうか。

○芦崎委員

羅臼高校の卒業生が主たる産業である水産業や観光業に対して、就職先としての魅力を感じているのか疑問に感じています。

町の方向性や産業団体の雇用の在り方として、羅臼高校を卒業する生徒が町内の各分野で就職して活躍してほしいということであれば、総合学科の設立を含めて高校を存続させる目的が明確になると感じますが、そういう認識が薄い状況であれば羅臼高校存続の目的が果たせないのではないのでしょうか。

○石崎教育長

羅臼高校を卒業し、「地元企業に就職して地域で活躍する。」ということも大切な事かもしれませんが、子どもたち自身が将来の選択肢を増やすため、学びを深めるために町外の高校や専門学校に進学するという選択も当然尊重されるべきことです。

しかし、高校存続の目的として、「地域高校を残したい。」「高校生を地元で留めたい。」という目的を掲げるとすれば、さらに踏み込んだ議論の必要があると考えます。

○萬屋委員

地域の産業団体が羅臼高校を卒業した生徒の雇用についてどのように考えているのか知ること高校存続を考える上で必要になるのではないのでしょうか。

町内企業から「求人を出しても羅臼高校の卒業生からの応募がない。」というような情報はありますか。

○石崎教育長

町内企業の個別の求人状況やそれに対する応募の状況などについては把握しておりませんが、多くの卒業生が進学しており、地元以外も含めて就職者が少ない状況となっています。

○学務課長

1 間口 40 名の入学者となっていることに加えて、多くの高校 3 年生が進学を選択し、少ない就職希望者の内、町内企業への就職を選択する生徒は全体数としては相当少ない現状となっています。

高校存続の議論を進めるにあたり、当然、羅臼町として地域の高校の在り方について方向性を持った上で進める必要がありますが、一方で、羅臼高校は道立高校であることから北海道が定める基準で再編整備の対象となれば、存続の方法としては町立の高校として運営する他ないため、教育委員会の中ではその可能性も踏まえた議論が必要になると考えています。

○萬屋委員

一部の保護者からは、「高校から専門学校や大学などに進学するとすれば、いずれにしても羅臼町を離れる必要があり、それであれば経済的な部分も含めて高校までは親元から通学させたい。」という声もありますし、私自身も基本的には羅臼高校を存続できればいいと考えていました。

一方で、全国公募している多くの高校の中から羅臼高校を選択する子どもたちがどんな目標を掲げて入学してくるのか、卒業後の将来について行政側がどのようにフォローしていくのか、また、道内外から子どもを預かる町としての生活面や学習面に対する支援については十分考える必要があります、羅臼に高校を残したいという理由だけで全国公募により生徒数を確保するのは望ましくないのではないのでしょうか。

また、現在の羅臼高校の校舎は老朽化が著しく、今後、道立高校として存続をしていく上で、道が改修や修繕を行い、学習環境を整えて頂けるのかという疑問もあります。

私の意見としては、学習面や生活習慣を一定のルールの中で支援していくことができるため下宿よりも寮の方が望ましいという考えはありますが、目的がはっきりと見えない現状では高校存続について即答できる状況ではないのが正直な意見です。

○石崎教育長

現在、知床未来中学校を卒業する 6 割以上が羅臼高校に進学している実態があり、今後、割合が変化することは十分考えられますが、羅臼町として多くの地元の子どもたちが羅臼高校に進学しているということを考慮すれば教育環境の維持は大切なことだと認識しています。

その上で、地域連携特例校として高校を存続するための条件である「地元からの進学率が高い高校」の基準として「普通科は50%」という表現もあり、現状においては50%を超える地元の子どもたちが羅臼高校に進学する意思があるのであれば、高校を存続させる目的のひとつになると考えています。

高校存続のひとつの手段として全国公募があるわけですが、視察をした上で、住居の問題、それぞれの生徒が抱える問題、予算確保の問題など非常に多くの課題がありますが、存続の意義を明確にした中で方向性を決めて参りたい。

○芦崎委員

現時点で、「羅臼高校を存続させる」という方針が教育委員全員の共通認識であるという理解なのか、改めて確認させて頂きたい。

○石崎教育長

地域連携特例校となる事も含め、高校存続の議論がされて以降、教育委員会内では存続に向けた議論がされていると就任以降の認識ですが、相違ございますか。

○芦崎委員

過去に地域連携特例校となる際の説明会が行われて以降、産業団体含めて地域に意見を募る取組みや、教育委員会として高校存続の方向性を確定する議論をしたことはないと記憶しています。

○石崎教育長

承知しました。

本日まで説明させて頂いたとおり、全国公募をひとつの手段として高校存続する場合、非常に多くの課題がある中ではございますが、現時点で高校存続すべきではないというご意見をお持ちの委員はおりますか。

○芦崎委員

児童生徒数の推計や地元での就職状況、地域住民の理解の状況を鑑みると「高校存続すべきではない」ではなく、現状では「高校存続はできない」という理解でいます。

○石崎教育長

現状を理解した上で、「できないかもしれないが存続を目指す」ということについてはどのように考えられるでしょうか。

○芦崎委員

理解できません。

「高校存続できない」とした大きな理由としては、教育委員会としての存続の目的が明確になっていないからであり、明確になっていないため全国公募のルールのひとつである「地域住民の理解」を求めることが困難だと感じているからです。

目的を明確にしない以上、羅臼高校の存続を進めるのは難しいと考えています。

○学務課長

過去に講師を招き講演会を行った際に「高校がなくなると地域がなくなる。」という主旨の発言を含む講演会が開催されたという事実があり、講演会后に高校存続を望む要望書が羅臼町連合町内会から提出されたという経緯がございます。

要望書が提出されて以降、羅臼高校は地域連携特例校として存続されていることから、当時設立された「存続を検討する会」は現在解散されています。

改めてではございますが、地域連携特例校としての存続にはルールに基づいた入学者数の確保が必要であり、入学者募集のひとつの手段として全国公募があるという中での情報提供となっております。

教育委員会内での結論が「羅臼高校の存続は考えていない」ということになれば、全国公募を行うことなく、2年連続してルールに基づいた入学者数に達しなければ再編整備の対象となり次年度から募集停止となります。

募集停止もやむを得ないとした場合には、様々な事情で羅臼高校への進学を予定していた生徒への影響について議論の必要があるかと考えます。

○葛西委員

私としては「高校存続すべきではない」という意見はありませんが、高校進学も含めて地元以外で多くの体験・経験をすることが望ましいという考え方を持っています。

先ほどもありましたが、教育委員会として高校存続を目指すとしたときに、老朽化した校舎の改修が不透明である以上、下宿の運営準備を整えたり、多額の予算を投入して寮を整備したりすることに対する理解を得るのは困難だと感じます。

○佐々木委員

道立学校である以上、基準以下の入学者数が2年継続した場合、翌年度から募集停止にというルールが高校存続をするか否かの最優先されるルールであるとすれば、「羅臼町として高校存続の見通しを立てるため、時限を定めて募集を停止してほしい。」などの要望を道が承諾しない限り、存続させないという議論はないのではないのでしょうか。

教育委員会としては「積極的に高校存続するための支援を含めた議論」か「決められたルールの中で可能な限り存続させる」という選択になるのではないのでしょうか。

全国公募については高校存続のひとつの手段で、高校を存続させるために全国公募は必須という考え方には違和感があり、羅臼町から標津高校へ通学している生徒がいるように、道内の他の地域からの入学者を募るといった方法もあるのではないのでしょうか。

全国公募をするにあたり、総合学科の設立など羅臼高校の魅力を出していく必要があるという話もありましたが、これに関しては全国公募の実施の有無に関わらず魅力を感じる高校であることは重要なのではないのでしょうか。

○葛西委員

現在、地元の生徒のみが通学している羅臼高校の魅力として表立っているのは今年度から開始した一連の高校支援で、主に経済的な負担を軽減するための支援であることから子どもたちよりも保護者が魅力を感じる部分だと感じており、子どもたちにとって羅臼高校の魅力となっているとは考えづらいという印象があります。

○萬屋委員

現在も小学校や中学校に通っている児童生徒の保護者が子どもたちの進学先や将来設計について何を優先的に考えているかが不透明な状況です。

羅臼高校に通学している生徒の保護者からは「望んでいる高校支援ではない。」という声もありますが、具体的な支援内容を問いかけても具体的な回答を得られたことはありません。

高校存続の考え方、その手段としての全国公募の実施と募集に向けた魅力づくりについて教育委員会として方向性と目的を明確にすることは当然必要だと思いますが、子どもの将来設計や進学先の選択について保護者がどのように考えているかを知った上で検討していきたい。

○石崎教育長

佐々木委員からもありましたが、高校存続に向けた取組みを行わなければ、町内の児童生徒数が減少傾向であるため、羅臼高校が再編整備の対象となることは避けられない時が来るということになります。

高校存続の手段のひとつとして全国公募をするにあたって、予算投入によって受入れ体制を整備する必要があり、「費用をかけてまで高校存続の必要があるのか。」という声が上がること十分に考えられますが、進学先として羅臼高校を希望する生徒が一定数いる以上はその環境を可能な限り持続させていきたいと考えております。

全国公募に向けた視察により、各自治体の高校を存続するための目的や経緯、コンセプトなどを伺った上で多くの課題がそれぞれの自治体にありましたので、本日、情報共有をさせて頂き、皆さまから頂いたご意見を整理し、次回の教育委員会での議論

に繋げて参りたい。

その他、教育委員の皆さまから確認事項などはございますか。

(意見・質問は特になし)

○石崎教育長

これで予定されていた議事は終了となります。

本日は大変お疲れ様でした。